

## 会長の挨拶

関西日中平和友好会 会長 神谷 坦

新年おめでとうございます。よき新春を迎えられたことと、謹んでお喜び申し上げます。昨年中は関西日中平和友好会の活動に対し並々ならぬご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も昨年同様、ご支援の程宜しくお願い致します。

昨年後半、日本では10月突然の衆院解散の後、第48回衆院選で自民党が圧勝しました。景気も徐々に回復しているように感じます。

11月トランプ大統領のアジア歴訪などにより、米国、中国、日本、韓国、ロシアの間の首脳会談が行われていますが、北朝鮮の弾道ミサイル発射は相変わらず続いております。中国では10月中国共産党第19回党代表大会が開かれ、習近平総書記は「中国共産党員の初心と使命は人々の幸福と中華民族の復興」をうたい、第二期習政権が発足しました。

私は昨年12月に貴州省の貴陽市と安順市、広東省の深圳を視察旅行で訪れました。貴州省は少数民族が37.9パーセントを占め、これらの民俗が観光資源化されております。アジア最大の瀑布である安順市の黄果樹瀑布と天龍鎮（老漢族）で仮面劇鑑賞を見学しました。貴州は中国でもっとも貧しく、経済発展が立ち遅れた地方でしたが、国策で貴安新区にビッグデータ基地を作り、ビッグデータの先進地域となっています。通信の三大キャリアで中国では20億以上のユーザーを持つ中国移动、中国聯通と中国電信、続いて、アリババ、中国最大のIT企業の浪潮

(INSPUR)グループ、さらにテンセントや富士康などが進出する予定で、2014年ごろから徐々に、「IT企業なら貴陽に」という流れができ上がっています。まだ、開発が完成されているのは20%位と思いますが、今後ますます企業が集まり、発展していくと思います。

貴州民族大学も見学しましたが、少数民族に対して政府が授業料などを優遇し、少数民族の文化を保護していることを知りました。

深圳は数十年前に訪れましたが、その時は当時の最高実力者鄧小平氏の改革開放路線の採用により1980年に経済特区が指定され10年ほどたった後で、まだ、広大な空き地にポツンと建物があっただけでした。今や、経済特区という地の利を活かし、莫大な外国投資を誘致し、著名な中国企業が本社を構える大都市に発展しており、高度な技術への投資、開発スピードの速さに驚きました。ファーウェイ、テンセント、世界最大の電腦街である華強北路などを見学しました。

今回は貴州、深圳だけでしたが、トイレ革命、ゴミの清掃など衛生面の改善が進んでいます。中国政府は2020年までに「小康社会」（ある程度、ゆとりのある社会）をつくるとうたっていますが急速に成果を上げているように感じました。

さらに、中国政府は、2035年までに社会主義現代化（技術力強化）を図り、今世紀半ばまでに社会主義現代化強国となる（米国に並ぶ大国になる）とうたっていますが、広大なスケールと14億に近い人口のパワーによって必ず成し遂げると感じました。

我々関西日中平和友好会も、ビジネス、文化、芸術、技術等の各分野にわたり中国との交流を促進し、相互理解と相互信頼を増進していく事を中心に活動していきます。

さらに会員の輪を広げ、当会の諸活動を充実化し、会と会員の皆様が共に発展できる事業を展開していきたいと考えております。是非とも皆様方のご協力ご鞭撻をお願いいたします。

2018年1月



一般社団法人  
関西日中平和友好会  
Kansai Japan China Peace and Friendship Association